

第44回環境審議会計画部会での委員の発言要旨および県の考え方・対応等

番号	発言要旨	県の考え方・対応等
1	環境指標の目標値の設定について、目標値の達成が困難な指標があると思われる。例えば43番の耕作放棄地解消を面積は、5年間の間で達成することは難しいのではないかと。今後その目標値の変更等も踏まえて考えるのか。	これまでの対応などを検討し、指標項目の見直しも含め、新たな指標の案を、今後の環境審議会に諮っていく。
2	D評価が連続しているものがあると思うが、今後の対応が、前回と同じであれば、目標達成は難しいのではないかと。	
3	県民アンケートでの満足度と、指標の評価がずれているものがあった。その矛盾はどのように解消していくのか。	環境指標の進捗だけでなく、実感として満足度が上昇するよう、次期計画における施策の内容を検討していく。
4	調査結果について、行政で十分な取組みが行われず、結果的に重要度が低いとなっているならば、数値の問題でなく、取組内容の問題として、考えていく必要がある。	
5	アンケート結果の解析の仕方について、重要度はほとんど4を超えており、多くの人が重要だと思っている。一方で、満足度は3.5下回ったら、満足していない人が多いと総括した方がいいのではないかと。	前回お示した県政世論調査の散布図は、調査結果の評価がわかりにくいことから、次期計画の策定にあたっては、別紙のとおり表示方法を工夫していく。
6	県民が当事者である「ごみの分別」などの項目と、環境学習のように何をするかわかりにくいものを、同じ土俵で評価することに疑問がある。調査にあたっては、内容を検討してほしい。	
7	社会環境等の変化とあるが、災害ごみや、水環境など新しいものについて、どこまで計画の中で取り込んでいくのか。	次期計画の中で、プラスチックごみ対策や食品ロス削減対策などの課題に対する取組みを盛り込んでいく。
8	レジ袋の提供について、事業者が積極的に取り組むように働きかけることも必要があり、県民にもしっかりと伝えていくことが評価に繋がる。食品ロスに関しても、仕組みとして、それを集めて、食べ物を必要としているところに配る取組みを積極的に取り上げて、PRする施策も大切。	
9	策定の考え方のところ、現行計画の進捗状況や社会経済情勢の変化、県民の意向等を踏まえとあるが、レジ袋の有料化など、先進的なところから学ぶということをしっかりやってはどうか。	
10	率先してペーパーレス化を検討いただきたい。	資料は事前配布のみとし、用紙使用量を減らす。

番号	発言要旨	県の考え方・対応等
11	リフレッシュ香の川パートナーシップ協定については、魅力ある取り組みに変更していく必要があるのでは。	協定締結団体数は、目標値に対して順調に進展しており、魅力あるものとなるよう取り組む。
12	ごみの分別をさらに細かくする方向はあるのか。分別して出したのが将来どうなっているのか、情報開示が全然されてないように思う。	現時点では、市町から分別を細分化する予定はきいていない。分別したごみの処分方法については、市町によって異なり、今後、現状を把握したい。
13	高松市で一般ごみとプラスチックごみを一緒に燃やしているときいた。	(高松市に確認したところ)きちんと洗って分別収集されたものは、リサイクルされているが、汚れにより、リサイクルできないものは、焼却処分している。
14	40歳より下ぐらいの人だと新聞もテレビもあまり見ない。インターネットで情報を得ているような世代には、どのような周知をするのか。	施策ごとに効果的な情報発信の方法を検討していく。